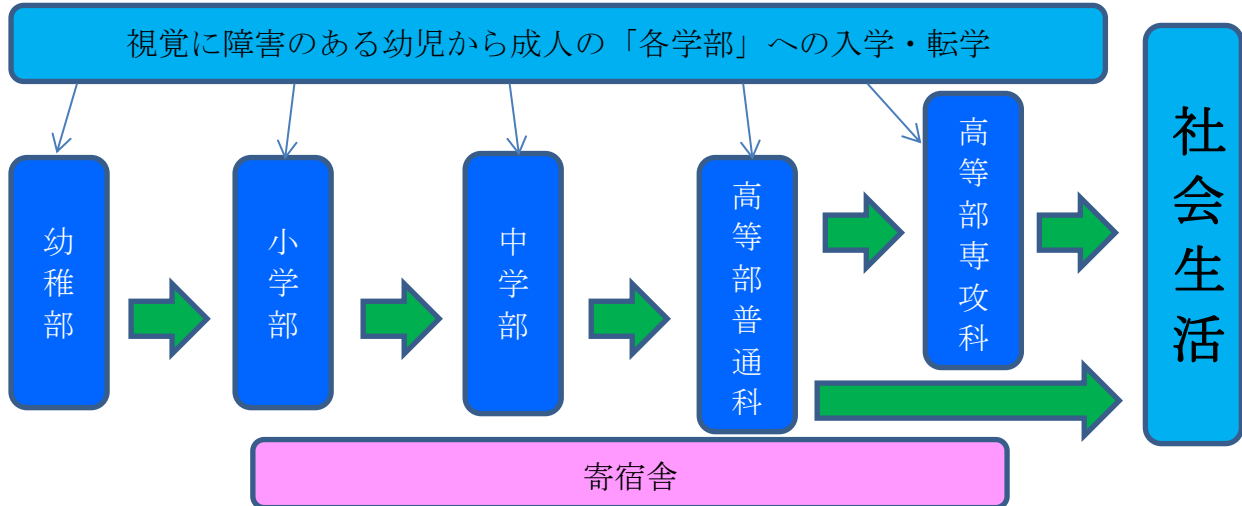


◀ 埴保己一学園の活性化・特色化方針 ▶

種別	視覚障害	学部・学科	幼稚部・小学部・中学部 高等部普通科・高等部専攻科	R4.5.1 児童・生徒数	(男) 57 (女) 50	計 107
アクセス	J R川越線 笠幡駅下車 徒歩 20分					
<教育課程等>						
<p>①視覚に障害のある幼児児童生徒のための学校で、点字や拡大文字などを使って、それぞれの学部で、幼稚園・小学校・中学校・高等学校に準ずる教育を行っています。</p> <p>②視覚障害に加えて他の障害のある幼児児童生徒に対しては、発達段階に応じた教育を行っています。</p> <p>③専攻科はあん摩・マッサージ・指圧、はり、きゅうの技能を習得する課程です。卒業時に国家試験の受験資格が得られます。</p>						
<学校行事・部活動>						
<p>学校行事</p> <p>①体育祭：幼稚部・小学部・中学部・高等部普通科の合同体育祭</p> <p>②霜月祭：ステージ発表、展示、模擬店などの文化祭</p> <p>校外行事</p> <p>①遠足・野外体験学習・社会体験学習・社会科見学</p> <p>②宿泊学習・臨海学校・修学旅行</p> <p>③進路施設見学・現場実習旅行</p> <p>部活動</p> <p>①陸上競技部 全国障害者スポーツ大会出場</p> <p>②球技部 平成29・30年度全国盲学校フロアバレーボール大会優勝</p> <p>③ブラインドテニス部・茶道部・料理部・あん摩部</p>						
<家庭・地域との連携>						
<p>①体育祭、霜月祭、マラソン大会等の学校行事における保護者のバックアップ</p> <p>②地域に開かれた専攻科のマッサージ等治療室（地域に開かれた学校）</p> <p>③PTA主催の「点字ブロック理解推進キャンペーン」（J R東日本との連携）</p> <p>④「電車」「ホーム利用」「ホーム下避難場所」の体験学習（西武鉄道との連携）</p> <p>⑤センター的機能を担う学校として、視覚障害のある県内全域の乳幼児から成人の方までを対象に教育相談を行っています。他校に在籍する児童生徒、先生方の相談にも随時お応えしています。</p>						
<進路>						
<p>①高等部普通科の主な進路先 大学、福祉サービス事業所、就労移行支援施設</p> <p>②高等部専攻科の主な進路先 国家資格取得者 一般企業就職 教員養成施設</p>						



特別支援学校 塙保己一学園 『視覚障害者の発達と自立、 社会参加を支える拠点となる学校』



◆自立活動：視覚障害に基づく様々な困難を改善・克服するために必要な知識や技能を学ぶ「自立活動」。保有する感覚を活用し、自分で予測、確かめていく習慣をつけながら、生活動作や歩行、移動、点字、視覚補助具や機器の利用等の学習を行います。自立に向けての様々な知識・技能を習得することで、社会の中で生きてはたらく力を身につけることを目指します。

◆日常生活：遊びや日常生活を通して、食事、衣服の着脱、排泄等の基本的な生活習慣を身につけます。ADL室を使つての学習、寄宿舍での生活などから身辺自立を目指します。

◆学習：児童生徒一人ひとりの障害や学習課題に合わせて、個別や集団での学習を行っています。小学部の朗読大会では、自分の好きな物語や詩を感情を込めて丁寧に朗読します。声の大きさや間、速さなどに注意して児童たちは練習を重ねます。中学部・高等部になると、自分の体験や主張を文章で書き表し、弁論大会に出場します。全国大会でも良い成績を残しています。また、漢字検定、英語検定、算数数学検定、珠算検定などに挑戦する児童生徒もいます。

◆運動：ボディイメージを育て、身体づくりを重視しています。中学部から参加する部活動、陸上部では、日々練習に汗を流し、飛躍的に記録を伸ばす生徒も見受けられます。球技部では、声を掛け合いながらチームワークあふれるプレイを作り出し、人間的に大きく成長する生徒たちの姿がみられます。卒業生の中にはパラリンピックの代表候補となった先輩もいます。

◆専攻科：職業的な自立を目指して、現代医学や東洋医学の基礎知識、あん摩・マッサージ・指圧、はり、きゅうの基本的技術、技能を系統的な学習を行っています。

◆寄宿舍：生活のリズムや身辺自立の力、友達と関わるができる力を伸ばし、自分の手で生活を築く力を育てるようにしています。

幼児児童生徒の興味関心をひろげ、自ら外界に積極的に関わっていける力を伸ばすために、学校生活全般、様々な行事において体験的な学習を大切にしています。そのような取り組みの中で、幼児児童生徒たちは、自分で考え、表現し、判断していく力を育てています。